

## 2020 年度第 3 四半期決算 主な質疑応答

広報・IR部

### 【全体】

**Q：戦略事業の通期の営業利益見通しを 300 億円から 320 億円に引き上げているが、その理由は？**

A：モビリティはコロナ影響で想定よりも弱い。エレクトロニクスは全体で見ると想定よりも強い。EUV マスク blanks は想定通りの進捗だが、オプトエレクトロニクス用部材はスマートフォンの複眼化が進み、出荷数量が増加している。ライフサイエンスも CDMO 事業が伸びており、想定と比べ強い。

**Q：戦略事業営業利益 20 億円増益の分野別内訳は？**

A：エレクトロニクスとライフサイエンスが同程度の増加になっている。

**Q：来期以降の業績も勘案し、年間配当予想を決めたとのことだが、来期業績をどのように見ているのか？**

A：欧州は不透明だが、全体としては回復基調にあると考えている。現在のような with コロナの状況が続けば来期は増益となるだろう。今期もコロナ影響がなければ営業利益は 1,200 億円の水準に到達したことを考えると稼ぐ力はついてきている。

### 【ガラスセグメント】

**Q：3Q にガラス事業の構造改善費用を 60 億円計上しているが、通期ではどのくらい計上する予定か？**

A：3Q はフランスのブッソワ工場のフロート窯 1 基停止したことによる構造改善費用を計上した。通期では未定となっている。

**Q：ガラス事業の ROS 5%、ROCE 10%という水準は来期以降見えてくるのか？**

A：短期間でそのレベルに引き上げるのはハードルが高い。日本でセントラル硝子との事業統合の話を進めているが、こうした業界構造を変えていく施策も併せて、早期に ROCE 10%を早期に達成したい。

**Q：ROCE 10%を達成するためには日本のガラス事業も構造改革が必要との認識か？**

A：日本の今後の需要動向を勘案すると、業界構造の変革が必要だと考えている。  
他の地域についても、業界構造改革の機会があれば進めていきたい。

**Q：ガラス事業が 3Q かなり回復している。来期は黒字化できるのか？4Q に欧州でのコロナ第 2 波影響を懸念しているとのことだが、ロックダウンで工場の操業が止まる可能性があるのか？**

A：現時点で来期のお話しすることは難しい。

現在のような with コロナの状況環境が続けば、来期黒字を狙えるかもしれない。欧州は、3 月中旬から 5 月にかけてお客様の生産ラインが止まった影響が大きかった。現時点でお客様の生産ラインが止まっているということはないが、状況次第で生産ラインが止まることもあり得る。ただ、各国が経済活動を完全に停止することは考えづらい。また、医療体制の改善などもあるので、4Q は 2Q ほど悪化しないとは見ている。

**Q：欧州ガラス事業関連でどのくらい構造改善費用が発生したのか？**

A：欧州ガラス事業に関連した構造改革改善費用と固定資産除却損を3Qに約100億円計上した。

**Q：4Qも構造改善費用の発生を見込んでいるのか？**

A：今のところ、4Qに大きな費用の発生を見ていない。

**Q：ガラスの市況が戻ってきている背景は？**

A：自動車用ガラスの需要は想定よりも早く回復している。中国は前年比でプラスになっている。欧州も当初想定より戻りが早い。建築用ガラスも悲観的に見ていたが、回復が早かった。

**Q：ガラス事業の構造改善について、前回の決算発表では欧米の自動車ガラスの生産ライン統廃合を可能な限りのスピードで実施していくという話があったので、3Qは大きな事業構造改善費用が発生すると予想していた。今期予想に大きな費用を織り込んでいないのは、市場の回復が想定より早いので、需要動向を確認してから構造改革を実施するということか？**

A：欧州や北米の自動車用ガラス事業では工場閉鎖などではなく、生産ラインを停止している。ほとんど償却の終わった古い設備を停止しているため、構造改革に伴う大きな費用が出づら。従前からお話していた通り、古い設備から生産性高い設備への移行を進めている。

## 【電子セグメント】

**Q：液晶用ガラス基板のQoQ数量増加幅が市場に比べて小さいがシェアを取られているのか？**

A：競合との数量動向の違いは客先構成による。液晶用ガラス基板は好調で不安要素はほとんどない。3Qはステイホーム需要が強かったが、4Qはやや慎重に見ている。

**Q：今期のEUVマスクブランクスの上高は前年比でどのように推移するのか？来期の見通しは？**

A：順調に数量が増加しており、今期は100数十億円程度の上高になる見通し。2019年の倍の上高までにはいかないが堅調に推移している。2021年は200億円を超える上高を見込んでおり、2025年に上高400億円以上を目指していくことのできる水準にある。

## 【化学品セグメント】

**Q：市況が良い中、3Qのクロールアルカリが減益となっている理由は？市況改善の恩恵はいつ出るのか？**

A：苛性ソーダは様々な産業に使用されるため、東南アジアのコロナ禍の影響を大きく受けて価格が下落している。一方で東南アジアの塩ビ価格は比較的安定している。コロナ禍でも旺盛なインフラ投資が需要を下支えしている。足元の業績は、塩ビスプレッドの改善もあり、回復傾向にある。ただ、苛性ソーダが弱いために全体としての力強さに欠けている。

**Q：塩ビの原料であるエチレン価格が高い状態であったが、その影響を受けた？**

A：エチレンの在庫払い出しと市況にタイムラグがあり、その影響を受けている。これは徐々に改善する。

Q : 苛性ソーダの需要が弱く、減産しているということはないか？

A : それはない。

以 上